

(前略) 大事なことは、その園に通う子どもや保護者にとって居心地がよく安心していただける場所であること、そして園に関わる人々の育ちの場になっていることであることは言うまでもありません。保育には園の方針などによっていろいろな保育・教育の方法があります。



ただし重要なことは、図のようにプロセスにおいて、子どもにとって安心感や居場所感と遊びや暮らしにおいて夢中・没頭できる経験の時間が保障されていることが大事になります。それが生涯にわたり、物事に深くかかわる学びに繋がっていきます。

保育の質を向上させていくのには何が大事なのでしょうか。それは園の現在の状況によって何が優先されるべきかは異なると言われていています。

最低限まずは、子どもの生命の保持と情緒の安定が保障されるよう国や自治体が設けた最低基準が守られることです。しかしその基準はすでに満たしている園では、保育士の資質が大事であり、そのために研修が大切であることが海外の研究からは明らかになっています。また保育は言葉で指導するだけの教育ではなく、環境を通しての教育です。ですから子どもたちが自ら関わり探索探究できるような環境や素材が保育室の中でも園庭をはじめとする戸外の経験でも必要とされます。そしてさらによりよい園と長期的になっていくのに大事なことは、離職率が低く、園全体として安定した保育が継続的におこなわれること、そして保護者や地域の信頼を得てその地域らしい園の文化が創られていくことにあります。

保育は全国どこでも一律の最低の基準が守られることはとても大事です。ただし同時に、質の向上のためにはそれぞれの地域のニーズやその地域や園の文化を生みだし、子どもや保護者と共に園が地域の子育てを担う中心、センターとなっていくことと言えます。(以下略)

出典 NHK 解説委員室 解説アーカイブス「保育の質とは何か」(視点論点)

<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/276807.html>